



■ 地域における人づくり実践事例

福島のこと忘れてないよ！

福島子どもキャンプ in伊豆（河津町）

「保養ネット・よこはま」

代表 池内 三津子

事務局 西岡 政子

ブログ <http://ameblo.jp/ecofukiko>



スタッフ・ボランティアの皆さん



福島の家族とともに

子ども達に当たり前の日常を

豊かな自然に恵まれた河津町。その山あいにある「いりあい村」には、夏休みの時期を利用して、福島子ども達とその家族がやってきます。

福島の被災地には、未だに外で思い切り遊べない地域があります。そんな地域子ども達に、ストレスのない安全な場所で、安全な食品を食べ、しっかりと保養してもらうことを目的に、「福島子どもキャンプ in伊豆」が毎年開催されています。

この取組は、代表の池内さんと事務局の西岡さんを中心とした「保養ネット・よこはま」が主催しており、昨年度まで人づくり推進員として長年活動していた河津町の松濤瑞枝さんもボランティアとして参加しています。

キャンプは9日間で、毎日、時間単位で、子ども達が自然を体験したり、地元の方々と交流したりするプログラムが考えられています。スタッフやボランティアの皆さんは、子ども達が心と体をリフレッシュし、成長していった欲しいという思いから疲れものともせず、キビキビと活動していました。



「いりあい村」にある古民家に6家族24人とボランティアが寝泊りします。子ども達はすぐに仲良くなり、まるで大家族のようです。真夏の暑い日でも、涼しく、とても快適です。

これからも活動を続けるために

キャンプに来た子ども達は、川や海で水遊びをしたり、果樹園や茶畑で虫取りをしたり、自然の中で思う存分に楽しんでいました。

また、地元の方々も一緒に参加する演奏会、朗読会が開催され、大人も子どもも皆で楽しんでいました。

東日本大震災から5年経ちますが、子ども達が心身ともにリラックスした中で成長していく保養の機会は、益々重要になっています。しかしながらこの活動は、そのほとんどが寄付とボランティアの善意によって成り立っており、年々、活動を続けていくことが厳しくなっているとのことです。

これからも引き続き被災地子ども達が、逞しく成長するために、多くの方にこの活動を知ってもらい支援の輪が広がって欲しいと感じました。(伊熊)



ボランティアのバブさんの童話朗読会は子ども達に大人気！！
「どんぼのぼぶ」で検索すると動画サイトに童話の朗読が多数アップされています。



食事は、生産地直送、無農薬といった食材にこだわり、ボランティアが丁寧に作ります。体に良い食事をとることで、免疫を高めるというこだわりを感じます。

地域の教育力を高める

公民館寺子屋（熱海市）

中央公民館 塾長 石橋 浩美



しゅくだいタイム



おでかけ
(熱海ゆかりの歴史上の人物を勉強中)

みんなで学ぼう！

熱海市では、平成26年度から、市内の小学2年～6年生までの希望者を対象に「公民館寺子屋事業」を実施しています。

公民館寺子屋は、市内4ヶ所の公民館で夏休み7日間、冬休み3日間の計10日間開催されています。

小学校の学習支援員や元教員、地元の有志によって、宿題や苦手教科のお手伝い、料理教室、ふるさとの歴史学習など特色のある授業を行っています。

さらに、子どもにとっては、普段では交流できない学校や学年が異なる子ども達と一緒に学習することにより、互いに刺激しあい、協調性を学ぶ良い機会となっています。

子ども達は、初対面でもすぐに打ち解けて、協力して作業をしていました。どの子も笑顔で、公民館寺子屋で、充実した時間を過ごしている様子が印象的でした。



公民館寺子屋の地域での認知度は年々高まっており、今年度は定員を大きく上回る応募があるなど、とても好評です。

公民館寺子屋で実施するプログラムの内容は、それぞれの寺子屋の塾長が独自に企画し、運営しています。

その塾長の一人で、今回、取材させていただいたのが、今年度から人づくり推進員として活動している石橋浩美推進員です。

地域で学ぼう！

取材に訪れた熱海市中央公民館では、塾長の石橋さんと3名のスタッフが、子ども達に勉強を教えたり、一緒に調理実習をしたりなど、丁寧に対応していました。

毎回、公民館寺子屋の始めに絵本の読み聞かせをする時間を設けるなど、子ども達がスムーズに学習に入ることができるように工夫がされています。

また、ダンスや英語、歴史のプログラムを実施する際には、地域の方々が講師として協力してくれます。こうした講師の依頼を含め、公民館寺子屋で使う資料や材料などは、ほとんど石橋さんが手配しており、子ども達のために精力的に働く、その姿に圧倒されました。

スタッフの方は「石橋さんに誘われてお手伝いしています。石橋さんの行動力は、本当にすごいと思います。」と話してくれました。石橋さんは、「寺子屋期間中は、いつものお母さんと違うと自分の子どもから言われました。子ども達と触れ合うことで、自分がエネルギーをもらっています。」と笑顔で話してくれました。この石橋さんの熱意が、寺子屋の子ども達の笑顔と元気の源であると感じました。この取り組みが、さらに大きく広がって欲しいと感じました。(瀧)

石橋さんは、常に子ども達と同じ目線で語り掛けます。一人ひとりの様子を良く見ていて子どもに合わせて、笑顔でアドバイスをしていました。



■ 人づくり推進員の活動紹介



ひまわりのたねを食べてみます



野草のにおいをかいでみます

浮島ヶ原の自然を大切に！ 浮きウキ子どもクラブ (沼津市)

NPO 法人
浮島沼自然・里つくりの会
理事長 鈴木 昌宙



ほら！豊かな自然があるよ

沼津市から富士市にまたがる浮島地区には豊かな自然が広がっています。このすばらしい自然を、地域の子どもや大人に知ってもらおうと活動しているのが「浮島沼自然・里つくりの会」です。そして、その中心になって活動しているのが、県の人づくり推進員としても活躍している理事長の鈴木昌宙さんです。

浮島沼自然・里つくりの会では、小学生を対象に、浮島地区で自然体験活動「浮きウキ子どもクラブ」を実施しています。

今回は、8月14日に開催された「ツバメのねぐら入り観察会」に同行してきました。

まずは、浮島湿地帯の北側にある浮島地区センターからJR原駅に程近いアクアプラザまで約1.5kmを歩きました。昔は、大小様々な沼地が点在していたそうですが、今は水田や埋立地になっており、その途中に様々な種類の野草が生息していました。

鈴木さんは、その名前、由来、におい、効能、味、食べ方などについて、次々に話してくれます。普段、なにげなく見ている野草にも、ひとつひとつ、こんなに特徴があるのかと驚かされます。また、クラブにリーダーで参加している子ども達は、それらを覚えており、学びが活かされている様子が見受けられます。



「ナヨナヨワスレ ナグサ」

周囲にもたれかかって生息することから「ナヨナヨ」の和名がつけました。この野草は、浮島地区のみに生息しているそうです。

アクアプラザ周辺の遊水地も自然の宝庫で、野草だけでなく多くの種類の野鳥を観察できました。私には、全く判別が付きませんでした。事前に学習していた子ども達は、野鳥の種類や見分け方などをよく知っていました。

ツバメのねぐら入り



神谷芳郎さん（浮島沼自然・里つくりの会員）による事前講義です。ツバメの生態や特徴を絵を使ってわかりやすく説明します。学んでおくと、この後の観察もより興味深いものになります。

その後、ツバメの寝床であるヨシ原に移動し、ツバメのねぐら入りの観察がはじまりました。午後6時30分の観察スタート時には、十数羽のツバメしか飛んでいませんでしたが、午後7時近くになると、だんだん数が増え、ついには空を覆いつくさんばかりのツバメが飛来し、その光景には圧倒されました。

この光景が見られるのも、この場所に豊かな自然が残っているからです。鈴木さんを中心とした自然を知り、守り、大切にすることを学ぶことのできる活動は、地域にとっての貴重な財産ではないかと感じました。

(伊熊)



参加者は火花を見るように空を見上げていました。今回は、何万羽というツバメが飛来しましたが、20年前はもっとヨシ原がたくさんあったので、ツバメの数もさらに多かったそうです。

人づくり実践事例紹介

社会に羽ばたく人材の育成！

静岡県学生会館 富士寮

東京都文京区大塚 1-11-9

(東京メトロ有楽町線 護国寺駅徒歩5分)



60年の歴史をもつ「静岡県学生会館 富士寮」



共同風呂には小さいながら富士山が描かれ「静岡県」を感じます

共同生活を通じて

東京メトロ護国寺駅から徒歩5分、大通りから一本入った閑静な住宅街に「静岡県学生会館 富士寮」があります。

富士寮は、静岡県出身で首都圏の大学や専門学校等で学ぶ男子学生向けの寮で、現在47人が暮らしています。学生達の部屋は個室ですが、食堂、浴室、トイレは共用、朝夕の食事付きで、寮長さん、寮母さんが常駐しています



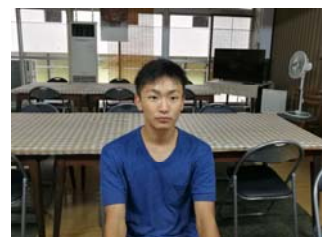
寮生の心強い味方 山田耕司寮長さん(右)、庵原春子寮母さん(左)。卒業生は1,200名を超え、長年に渡り寮生を見守ってきました。いつも温かく、時には厳しく、相談にも親身になってくれる、まさに「東京のお父さん、お母さん」です。

この寮は、寮費が安く、食事付き、都心に近く、交通の便が良いことも魅力ですが、本当の「価値」は、県内各地から集まった学生が知り合い、交流が広がり、上下関係も経験しながら、自分達でルールを作り共同生活の中で成長できることです。さらに、寮長さん、寮母さん、食事を作ってくれるおばさんが、学生の生活に“おせっかい”をやいてくれることも大きな魅力です。「挨拶をしなさい」「食事の時は姿勢よく！スマホはしない」「イヤホンしながら自転車に乗ると危ないよ」など、寮生のためを思って注意してくれます。

逞しい社会人に

普段は物静かな山田寮長さんは「近く社会に飛び立つ寮生に、人として基礎となる部分の生活指導を行います。学生が自立することのお手伝いをしているだけです。」とおっしゃいます。決して、“学生べったり”になっているわけではなく、適度な距離を保って見守ってくれます。また、寮生の保護者には、近況を伝える年4回レターの送付に加え、年1回の保護者会を開催し、朝食の欠食状況など報告しており、保護者からは、「本当に安心できる」と言われているそうです。

時代とともに入ってくる学生も変わってきているそうですが、寮母さんは「寮を出て社会人になってから、ここで言われたことがあらためて分かるようになるでしょう。」と話します。二代続けて寮生だった人がいたり、50年前の入寮生が突然、来訪したりと、富士寮は、ともすると失いかけてしまう「心」が育まれる場であり、まさに「人づくり」が実践されていました。寮母さんは、伺った日の週末に寮生OBの結婚式に招待されているそうです。(伊熊)



静岡市出身で、大学1年生の原和史君は、「学校での友人だけでなく、多くの寮生とコミュニケーションをとることができ、さらに知り合いの輪が広がるのがとても楽しい」と語ってくれました。

編集・発行 静岡県 文化・観光部 総合教育局 総合教育課(総合教育班)

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3304 FAX 054-221-2905

E-mail sougouEDU@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-170a/>

静岡県の人づくり推進

検索

静岡県は「人づくり日本一」をめざしています

